

学校武道推進プラン 2024 - 2026

公益財団法人全日本空手道連盟



目次

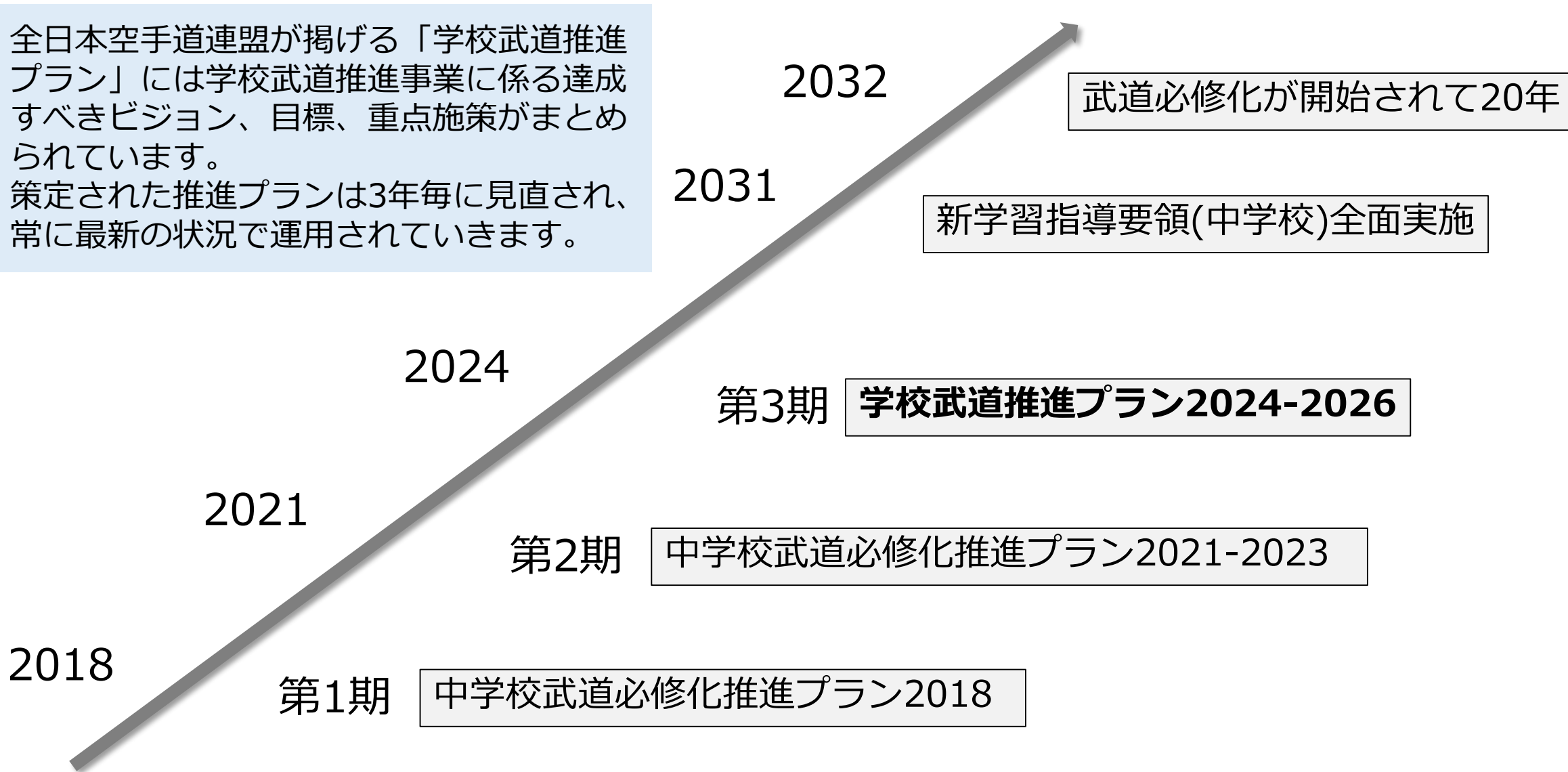
- 1. 事業の領域**
- 2. 理念・ビジョン**
- 3. 現状分析**
- 4. 基本戦略**
- 5. 基本計画**
- 6. 重点施策・目標・具体的取り組み**

1. 「学校武道推進プラン2024-2026」の位置づけ



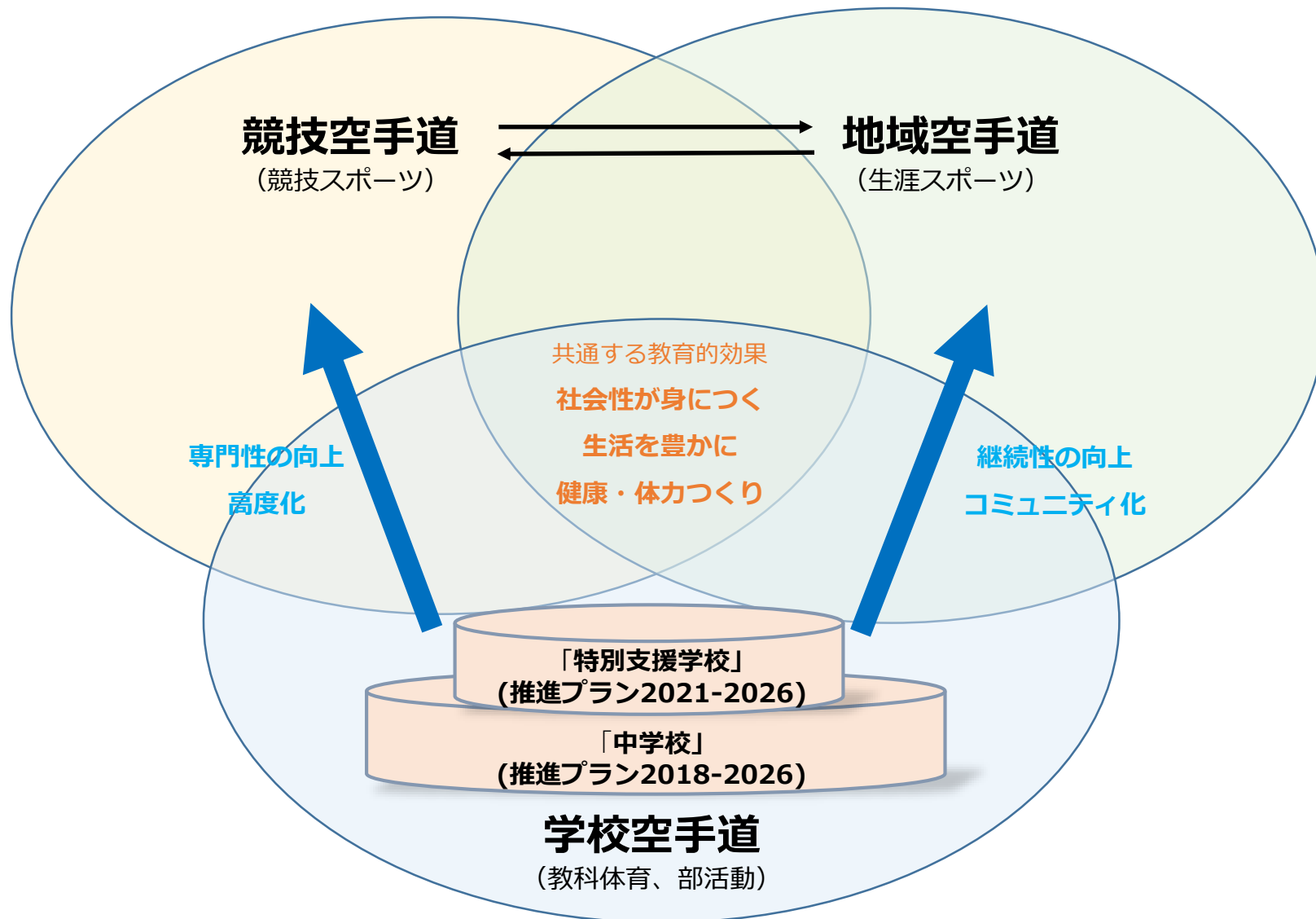
1. 「学校武道推進プラン2024-2026」のロードマップ

全日本空手道連盟が掲げる「学校武道推進プラン」には学校武道推進事業に係る達成すべきビジョン、目標、重点施策がまとめられています。
策定された推進プランは3年毎に見直され、常に最新の状況で運用されていきます。



1. 「学校武道推進プラン2024-2026」の領域

空手道振興のための三大領域



目次

1. 事業の領域

2. 理念・ビジョン

3. 現状分析

4. 基本戦略

5. 基本計画

6. 重点施策・目標・具体的取り組み

2. 理念とビジョン

理念

空手道の社会的地位の向上

行動規範

「空手道を学びたい生徒が、当たり前前に空手道を学べる社会に」

中学校で武道が必修化になり9つの武道が実施できるようになりました。あなたは、どの武道を学びたいですか？

ある中学校では、生徒が希望する武道を選択できるようになりました。多くの中学校がこれを「当たり前」と捉えるようになれば、

「空手道を学びたい生徒が当たり前前に空手道を学べる社会」

へ一歩近づけたのだと思います。
そのきっかけになることを私たちは望んでいます。



2. 理念とビジョン

ビジョン

～中学校武道必修化開始から20年後の2032年に向けて～

柔道・剣道に比肩する武道としての地位を確立する

事業ビジョン

教員に選ばれる武道から、生徒に選ばれる武道へ

組織ビジョン

中央主導型から、地方主導型へ

数値ビジョン

中学校の空手道授業実施率5%から、30%（複数選択を含む）へ

目次

1. 事業の領域
2. 理念・ビジョン
3. 現状分析
4. 基本戦略
5. 基本計画
6. 重点施策・目標・具体的取り組み

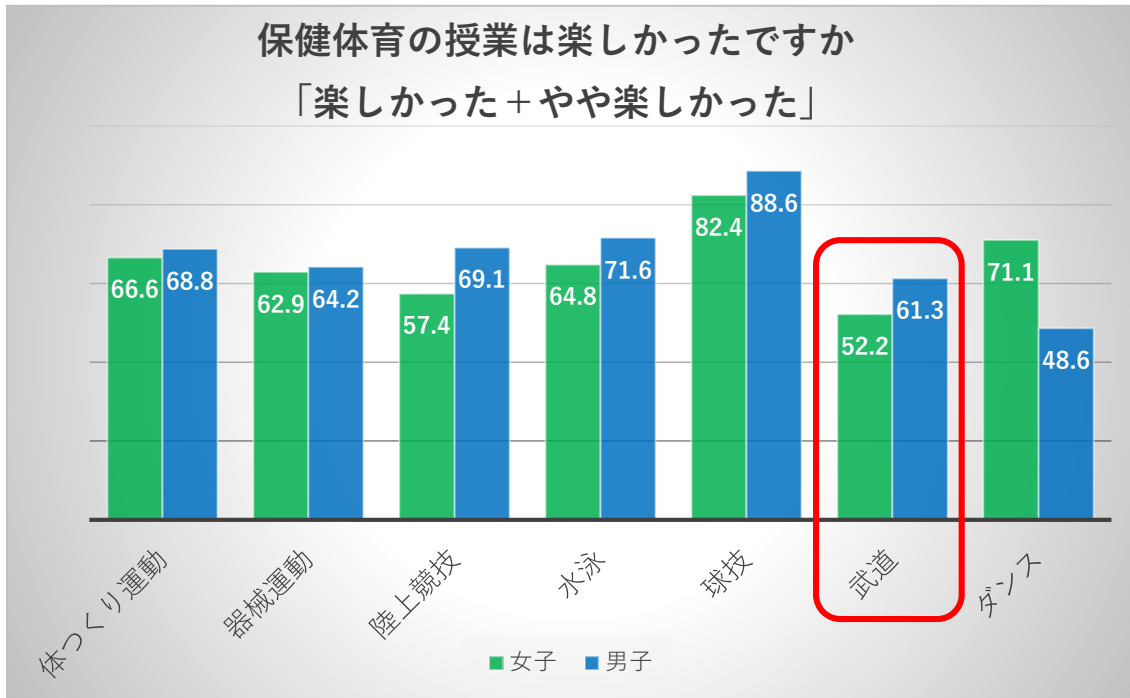
3-1.外部環境分析 – 社会の変化への対応 –



領域	導入期	停滞期	成長期	進化期
空手道授業	指導の手引き作成	指導書・DVDの作成	スポーツ庁委託事業の開始 学校武道推進委員会の新設	全国学校空手道コンクールの開始 誰一人取り残さない空手道授業の推進
学校	暴力体罰問題	教員の働き方改革	オリパラ教育 コロナ対策	GIGAスクール構想 不登校、いじめ対策
スポーツ	競技団体の不祥事	スポーツ庁新設 部活動改革	東京オリパラ 第2期スポーツ基本計画	運動部活動の地域移行 障害スポーツ推進
保健体育	運動好きと嫌いの 子どもの二極化	子どもの体力低下 組体操問題	学習指導要領の改訂 外部指導者の活用	GIGAスクール構想 令和の日本型学校体育
武道	武道必修化開始	授業協力者の活用	学習指導要領9武道明記 武道ツーリズム	武道複数種目実施 教員養成大学の武道必修化

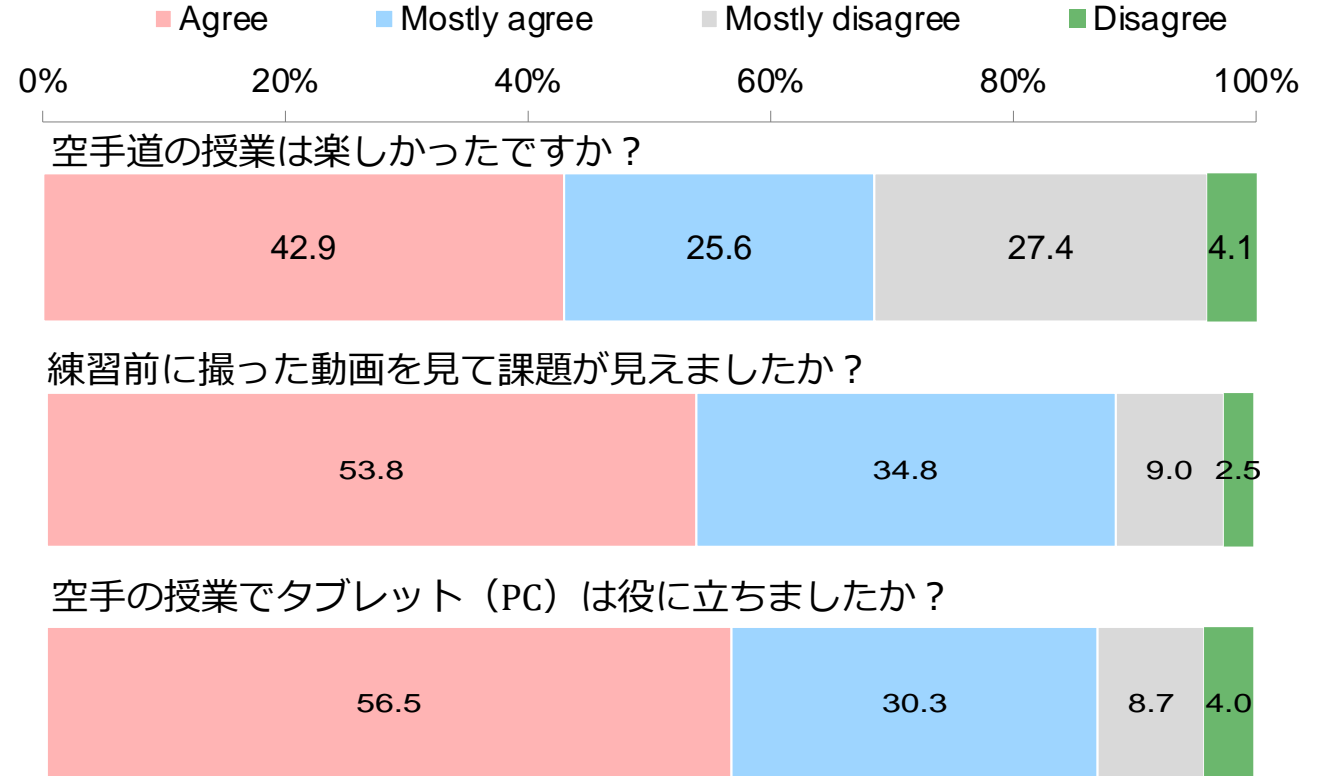
3-2. 内部環境分析 – 空手道授業実施校の現況調査から –

他の領域と比べ、武道の授業が楽しいと感じている生徒の数は少ない



出所：平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

ICTの活用によって空手道授業における生徒の「空手道に対する興味・関心」が高まった

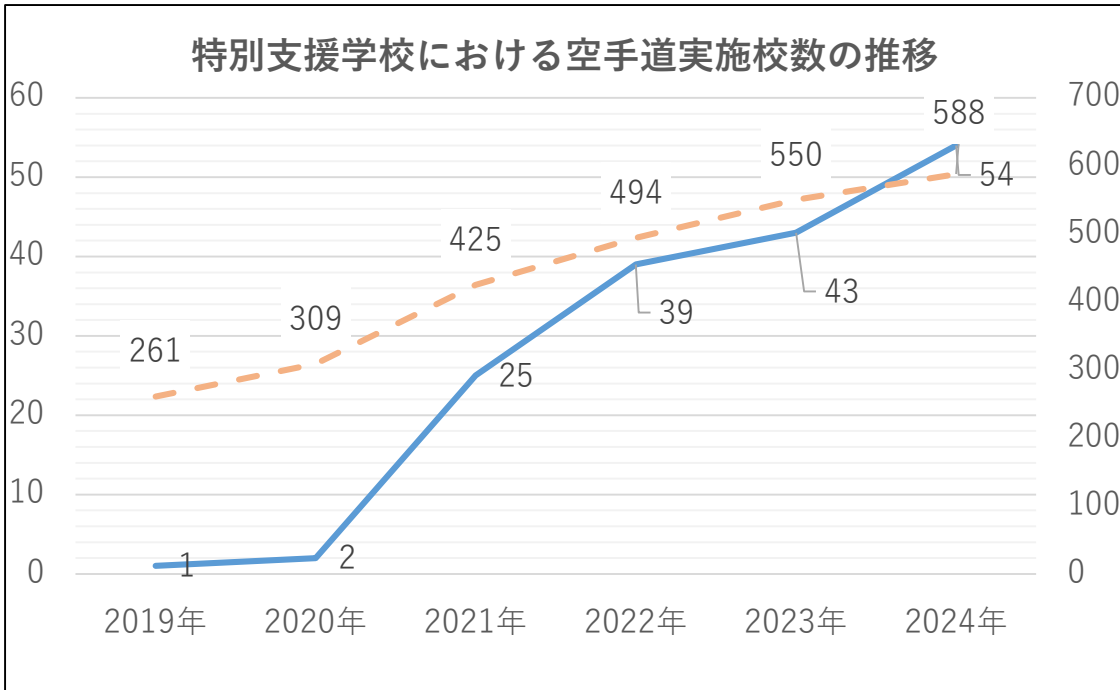


出所：空手道授業調査2020年 豊嶋建広（麗澤大学）井下佳織（麗澤大学）

空手道の楽しさや喜びを味わうための、ICT等を活用した指導方法や主体的・対話的深い学びを醸成する授業サポート体制の充実

3-3. 内部環境分析 – 特別支援学校での武道授業 –

特別支援学校における空手道授業がここ数年で急速に増加している



平成27年度時点において特別支援学校、特別支援学級での武道実施率は非常に低い

表1：特別支援学校及び中学校・特別支援学級の武道実施率（%）

	武道実施	
	有り	無し
特別支援学校（190校）	71校(37%)	119校(63%)
中学校・特別支援学級（69校）	13校(19%)	56校(81%)

表2は特別支援学校の障害種と武道実施の有無について表している。なお、対象の障害種と武道実施の有無について χ^2 検定を実施した。

表2：特別支援学校の障害種と武道の実施有無（校）

障害種	武道実施		合計	武道実施率
	なし	あり		
視覚障害	7 ↑ **	23	30	76.67%
聴覚障害	6 ↑ **	22	28	78.57%
知的障害	81 ↓ **	14	95	14.74%
肢体不自由	19 ↓ **	6	25	24.00%
病弱	6	6	12	50.00%
合計	119	71	190	37.67%

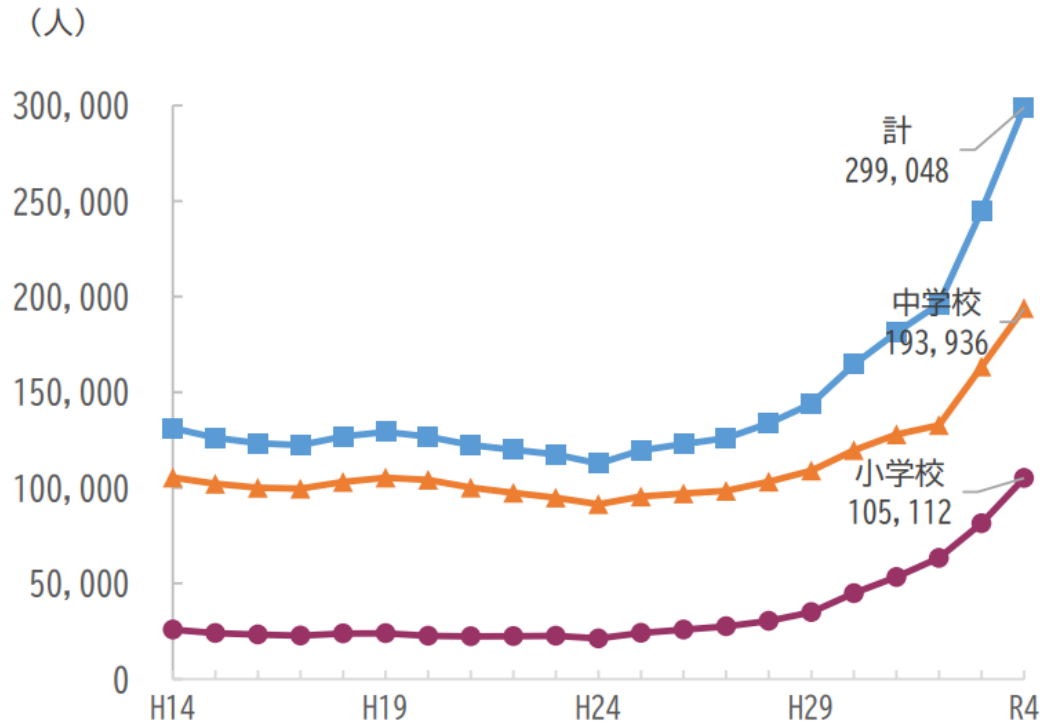
↑ 有意に高い p<.01 **
↓ 有意に低い

令和3年度から特別支援学校で武道が必修化された以降も、知的障害と肢体不自由の障害種別で武道の授業が十分に行われていない可能性

3-4.新たな課題 – 学びの多様化学校(不登校特例校)での授業 –

小・中学校における不登校児童生徒数は約29万9千人
(過去最多)

不登校児童生徒数の推移

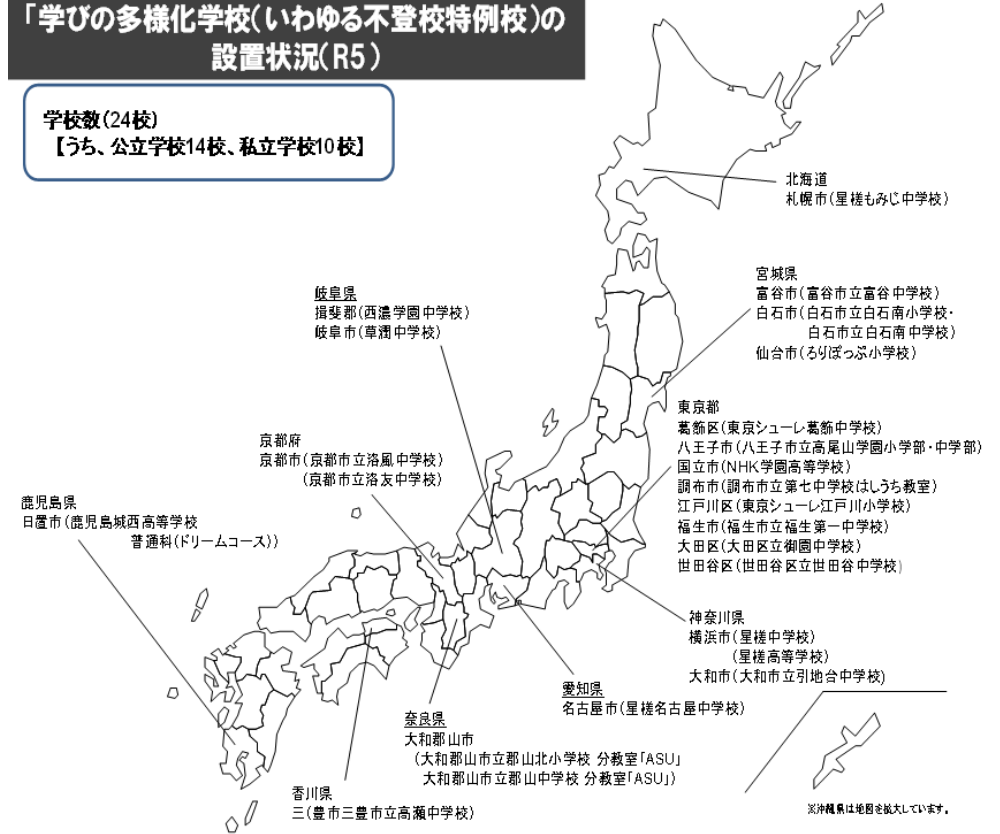


出所：令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要（文部科学省）

学びの多様化学校に指定された学校では、多様な子どもに合った特別な教育課程を考え、実施することができる

「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置状況(R5)」

学校数(24校)
【うち、公立学校14校、私立学校10校】



将来的に300校の設置を目指す学びの多様化学校や夜間中学での空手道授業の推進により、誰一人取り残さない空手道授業の実現

目次

1. 事業の領域
2. 理念・ビジョン
3. 現状分析
4. **基本戦略**
5. 基本計画
6. 重点施策・目標・具体的取り組み

4. 基本戦略

①

今まで以上に空手道の楽しさ
や喜びを実感できる授業支援
体制を構築する

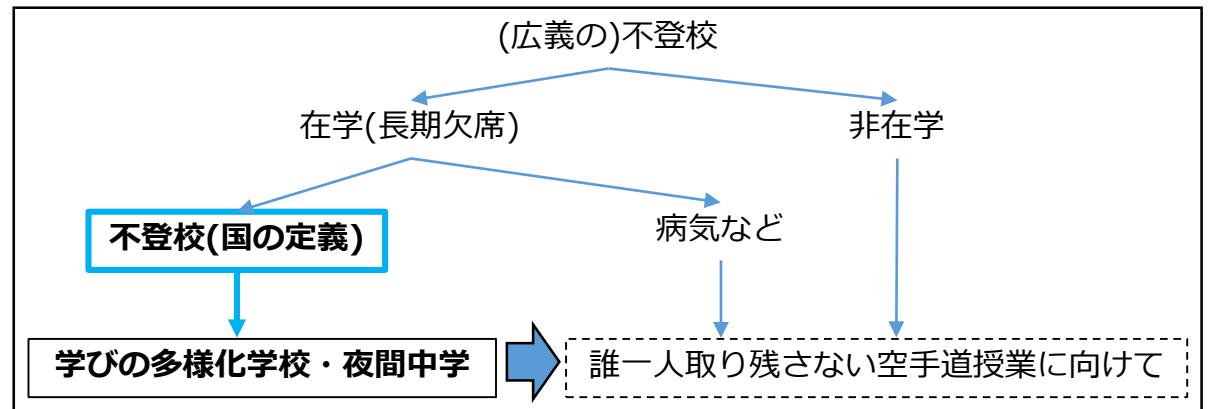
空手道授業の分類

		ICTの活用	
		無し	有り
アクティブラーニングの活用	無し	おもしろくない、楽しくない授業	思考力・判断力・表現力等を養う授業
	有り	主体的・対話的・深い学びが身に付く授業	楽しさや喜びを実感できる授業

②

誰一人取り残さない空手道授業の実現により、「特別支援学校」「学びの多様化学校・夜間中学」での採用率No1を目指す

不登校の分類

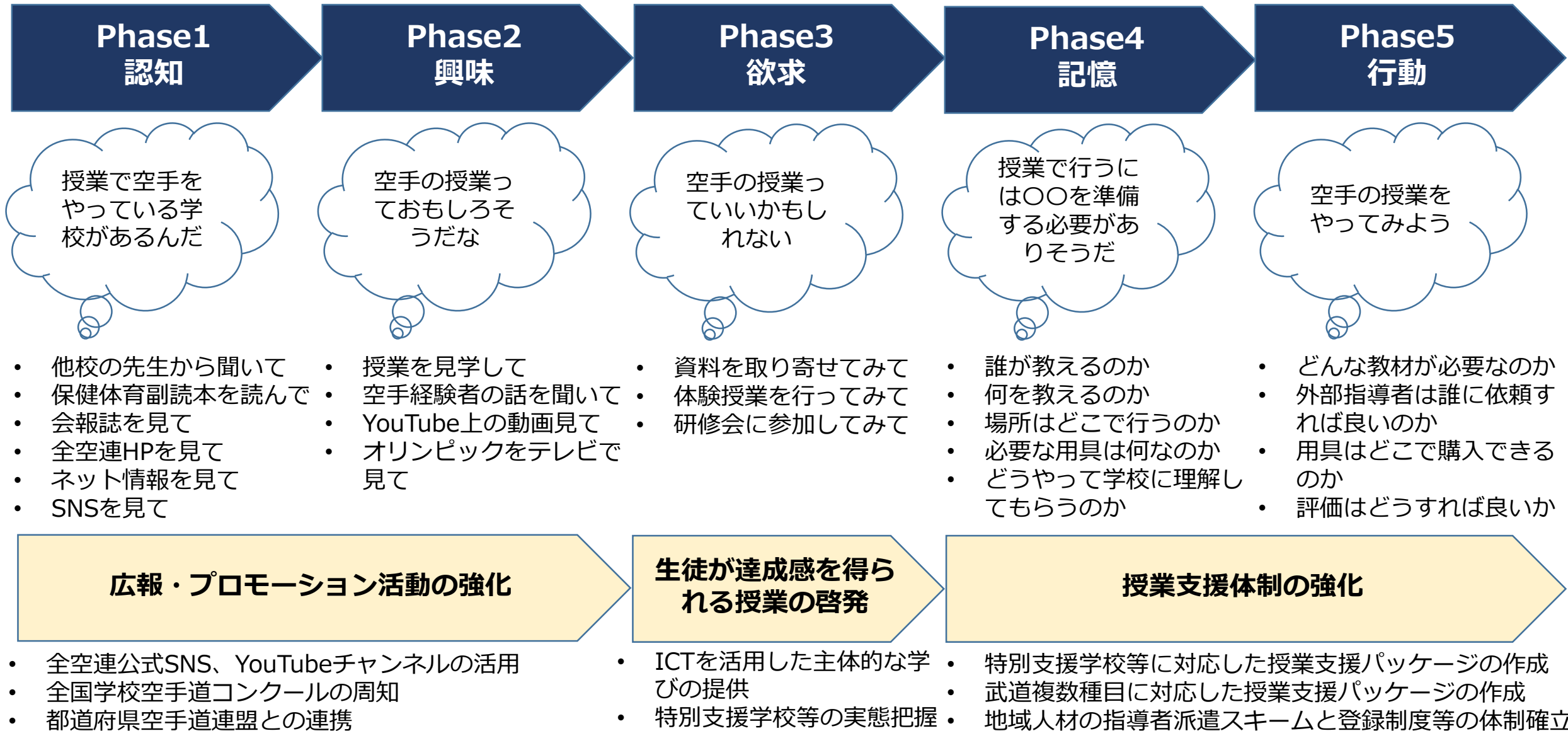


目次

1. 事業の領域
2. 理念・ビジョン
3. 現状分析
4. 基本戦略
5. 基本計画
6. 重点施策・目標・具体的取り組み

5-1. 基本計画の考え方

～空手道授業の導入に至るまでの基本プロセス～



5-2. 基本計画

今後3年間の達成目標

空手道授業実施中学校 1000校の達成

～ 中学校800校、特別支援学校150校、学びの多様化学校・夜間中学50校～

基本施策

- ① **広報・プロモーション活動の強化**
- ② **生徒が達成感を得られる授業の啓発**
- ③ **地域人材の活用や教材・資料等による授業支援体制の強化**

目次

- 1. 事業の領域**
- 2. 理念・ビジョン**
- 3. 現状分析**
- 4. 基本戦略**
- 5. 基本計画**
- 6. 重点施策・目標・具体的取り組み**

6. 重点施策・目標・具体的取り組み

① 広報・プロモーション活動の強化

- 重点施策**
- ①学校武道用の情報発信コンテンツの活用
 - ②全国学校空手道コンクールの周知
 - ③地区協議会・都道府県空手道連盟との連携

- 目標**
- ・学校武道特設ページ訪問数の増加
➔月間2,000回（2023年：月平均1,254回）
 - ・全空連公式SNSによる学校武道関連情報の配信件数の増加
➔10件（2023年：未実施）
 - ・全国学校空手道コンクールの動画再生回数の増加
➔10,000回（2023年：約3,000回）
 - ・全国学校空手道コンクールの参加チーム数の増加
➔50チーム（2023年：19チーム）
 - ・都道府県連盟の学校武道推進委員会の設置割合の増加
➔100%（2023年：20%）

- 具体的取り組み**
- ・既存の学校武道関連動画を活用し、全空連公式SNSを通じた定期的な情報提供を行うことで、学校武道特設ページへの訪問者数の増加を図ります。
 - ・全国学校空手道コンクールを全空連公式YouTubeチャンネルで配信することで、参加校の増加を図ります。
 - ・教員間での口コミや文科省・スポーツ庁等の後援、新聞社による告知記事等を促す工夫などを行い、全国学校空手道コンクールの参加校の増加を図ることで、全国の空手道実施校への周知に努めます。
 - ・学校訪問プロジェクトの取り組みを地区協議会や都道府県連盟と連携して行い、地方での実施回数の増加を図ります。
 - ・各都道府県連盟と全国連絡協議会の開催を通じて本推進プラン等の共有を図り、学校武道推進委員会の設置率の向上に努めます。合わせて、全中予選や全中選抜予選等の会場において普及活動の実施に努めます。
 - ・選手強化委員会と連携を図り、全日本強化選手の負担を考慮の上、地元出身選手等の派遣を積極的に行って参ります。

6. 重点施策・目標・具体的取り組み

②生徒が達成感を得られる授業の啓発

- 重点施策**
- ①ICTを活用した主体的な学びの提供
 - ②空手道の楽しさや喜びを味わうための取り組みの工夫を通じて思考力・判断力・表現力等の向上を図る
 - ③特別支援学校、学びの多様化学校、夜間中学における武道授業（空手道授業）の実態の把握

- 目標**
- ・ICTを活用した授業モデルの実践を取り入れた講習会の開催
➡年間5回（2023年度：1回）
 - ・アクティブラーニングを活用した授業モデルの実践を取り入れた講習会の開催
➡年間5本（2023年度：3回）
 - ・全国指導者研修会の参加者数の増加
➡80名（2023年度：69名）
 - ・学校訪問プロジェクトの実施回数の増加
➡年間40回（2023年：24回）
 - ・特別支援学校、学びの多様化学校、夜間中学での空手道授業を対象とした講習会の開催
➡年間5回（2023年度：3回）
 - ・空手道授業を受けた生徒の空手道に関する興味関心の向上
➡60%（2023年度：43%）

- 具体的取り組み**
- ・ICTを活用した授業モデルの実践を取り入れた講習会を開催し、生徒の達成感等への効果を検証します。
 - ・アクティブラーニングを活用した授業モデルの実践を取り入れた講習会を開催し、生徒の達成感等への効果を検証します。
 - ・研修会の参加者にモデル指導案を提供する等、満足度の高い内容とすることによって、リピーターの増加を図ります。
 - ・学校訪問プロジェクトや空手道授業を通じて空手道に興味を持った生徒に対するセミナーの開催や道場紹介等を検討します。
 - ・特別支援学校、学びの多様化学校、夜間中学での空手道授業実施の効果を検証し、独自の講習会プログラム及び授業カリキュラムを検討します。合わせて、運動効果等における指標の研究開発を行い、効果測定の数値化を図ります。
 - ・中央技術委員会と連携を図り、授業を受ける生徒への修了証の発行など空手道に関する興味関心への向上施策を検討します。

6. 重点施策・目標・具体的取り組み

③地域人材の活用や教材・資料等による授業支援体制の強化

- 重点施策**
- ①特別支援学校、学びの多様化学校・夜間中学に対応した授業支援パッケージの作成
 - ②武道複数種目に対応した授業支援パッケージの作成
 - ③地域人材の指導者派遣スキームと登録制度等の体制確立

- 目標**
- ・特別支援学校での空手道授業実施校数の増加
➡150校（2023年：54校）
 - ・学びの多様化学校・夜間中学での空手道授業実施校数の増加
➡50校（2023年：2校）
 - ・武道複数種目実施校における空手道授業実施校数の増加
➡100校（2018年：35校 ※(公財)日本武道館の調査より）
 - ・学校訪問プロジェクト申込システムの構築
➡システム化（2023年：未実施）
 - ・授業協力者及び候補者がリスト化またはシステム化されている都道府県連盟の割合の増加
➡50%（2023年：未調査）
 - ・中学校武道必修化推進事業に対するパートナー支援企業の獲得
➡2社（2023年：0社）

- 具体的取り組み**
- ・特別支援学校、学びの多様化学校・夜間中学における空手道授業のモデル指導案や生徒用リーフレット(英訳版)などの教材資料を指導法研究事業による視察等による実態の把握をもとに作成し、空手道授業の実施への支援を行います。
 - ・少時間数での実施を想定したモデル指導案の作成など複数種目実施に対応した指導方法に関する支援を行います。
 - ・学校訪問プロジェクトの申込から講師派遣までのプロセスをシステム化し、業務の効率化を図ります。
 - ・各都道府県連盟と連携し、JSPO指導者検索システムの活用や、授業協力者及び候補者のリスト化を行い、学校・教育委員会等とのマッチングを推進します。
 - ・学校武道推進事業を通じた社会課題解決に対して、その目的や理念に共感する支援企業の獲得を目指します。

6. 実行計画

基本方針	重点施策	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	目標
① 広報・プロモーション 活動の強化	学校武道用の情報発信コンテンツの活用	SNSからHPへの導線計画検討	SNSでの定期的な発信開始		<ul style="list-style-type: none"> ●学校武道特設ページ訪問数の増加 月間2,000回 ●全空連公式SNSによる学校武道関連情報の配信件数 年間10回 ●全国学校空手道コンクールの動画再生回数の増加 年間10,000回 ●全国学校空手道コンクールの参加チーム数の増加 50チーム ●都道府県連盟の学校武道推進委員会の設置割合の増加 100%
	全国学校空手道コンクールの周知	SNS広告戦略の検討・試験実施	学校教員間の口コミ等による広報施策の検討・実施		
	都道府県空手道連盟との連携	文科省・スポ庁の後援申請検討	公的機関及び新聞社等による広報戦略の検討・実施		
		学校武道推進委員会設置の啓発	連携事業の定期開催	連携事業の拡大	
② 生徒が達成感を得られる授業の啓発	ICTを活用した主体的な学びの提供	ICT/アクティブラーニングを活用した授業モデル講習会開催	動画コンテンツの作成	各事業での活用・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT/アクティブラーニングを活用した授業モデルを取り入れた講習会の開催 年間5回 ●全国指導者研修会の参加者数の増加 80名 ●学校訪問プロジェクトの実施回数の増加 年間40回 ●特別支援学校等での空手道授業を対象とした講習会開催 年間5回
	空手道の楽しさや喜びを味わうための取り組みの工夫	満足度の調査	指標の研究開発	指標に基づいた測定検証	
	特別支援学校、学びの多様化学校、夜間中学における武道(空手道)授業の実態の把握	講習会を通じた効果の検証	モデル事業の実施と効果測定	特別支援学校等への啓発	
③ 地域人材の活用や授業支援体制の強化	特別支援学校等に対応した授業支援パッケージの作成	コンテンツの制作	コンテンツの活用		<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援学校での空手道授業実施校数の増加 150校 ●学びの多様化学校・夜間中学での実施校数の増加 50校 ●武道複数種目実施校における実施校数の増加 100校 ●学校訪問プロジェクト申込システムの構築
	武道複数種目に対応した授業支援パッケージの作成	コンテンツの制作	コンテンツの活用		
	地域人材の指導者派遣スキームと登録制度等の体制確立	制度設計	モデル事業開始(エリア限定)	運用の開始(全国)	
	マーケティング施策	パートナー企業の獲得	パートナー企業との連携・拡充		●パートナー支援企業獲得 2社

6. 推進プランの実現に向けて

・事業評価システムの構築

- ⇒ 本プランを効果的・効率的に推進していくためには、常にPDCAサイクルを念頭におく必要があります。このため、学校武道推進委員会にて進捗状況を確認し、各年度ごとに評価・点検を行います。
- さらに、2026年には3年間の各重点施策の目標達成状況を評価・総括するとともに「学校武道推進プラン2024-2026」の進捗状況等を踏まえ、次の3年間に向けた推進プランを新たに策定することとします。

・本連盟の中長期計画との連携

- ⇒ 本プランに示したビジョンや目標等は、本連盟で定める中長期計画と常に連携・連動し見直しを図っていきます。そのため、各施策の実行にあたっては、本連盟各事業部門と緊密な協力・連携体制を整えたうえで取り組んでいきます。

・関係団体との連携・協働

- ⇒ 本プラン実現のためには、これまで以上に学校武道の推進に関わる各加盟・協力団体の自発的・自律的な取り組みや団体間の連携・協働が不可欠であると考えられます。このため、これらの団体に対しては、本プラン実現に向けた取り組みに対する理解・協力を求めていくとともに各団体が実現する学校武道推進事業へのサポートを充実させていきます。
- さらに、文部科学省、スポーツ庁、教育委員会、日本武道館、日本武道協議会等の関係機関・団体とも学校武道の推進について定期的・継続的な協議を行い、学校武道における空手道授業実施校の推進方策を検討していきます。

・事業実施のための財源確保

- ⇒ 本プランを遂行するためには必要な財源の確保が不可欠です。事業推進にあたってはオフィシャルスポンサー・年間サポーターに対し学校武道推進事業についての理解・協力を求めるとともに、文部科学省、スポーツ庁、教育委員会、日本武道館等の関係機関・団体からの助成金・委託金等の限られた予算を効率的・効果的に運用していくこととします。

学校武道推進プラン2024-2026

2024年5月

学校武道推進委員会